

## 4) 伝染病と流行病に対するホメオパシー

ジェイニー・ゴダード

「ジェイニー・ゴダードはまずはホメオパス、その後はサイコアナリスト/ヒプノアナリストとして経験を積んだ。現在、The Complementary Medical Association (補完医療協会)の理事長、数多くの著書の著者及び放送キャスター。一般の人々に認定基準に沿った、プロフェッショナルなCAM(相補代替医療)を提供するミッションをもつ。ホメオパシーが一般の人々に認められ、簡単に受けられる治療法になることを願う。最近の発行物には、Complementary and Alternative Health: The Scientific Verdict on What Really Works及びThe Survivors Guide to Bird Flu: The Complementary Medical Approachがある。彼女はNational Occupational Standards for Homeopathy (ホメオパシーに対する国家職業基準)を当初発行した機関のメンバーだった。またCORH (Council of Organisations Registerung Homeopaths英国全ホメオパス統合協会)の設立者の一人である」

### パートI：治療

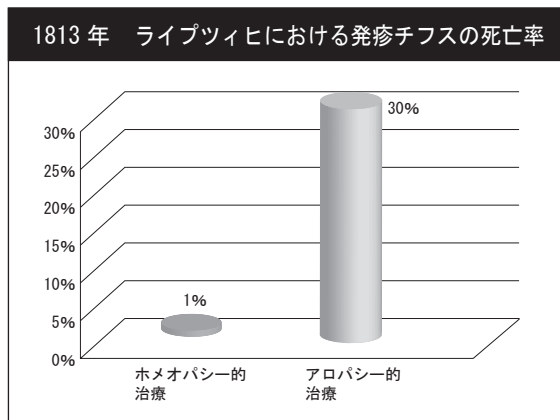
ホメオパシーは、歴史上、伝染病と流行病の治療に対して広く使われてきた唯一の補完医学であり、多くの国々で信頼できる記録が残されている。パートIIは、さまざまな伝染病と流行病の発生時におけるホメオパシー療法の効果を示す記録の概要である。パートIIでは予防について検証する。

### 1813年のチフスの流行

このチフスの流行の背景は全てを物語っている。ドイツとロシアに進出したナポレオンは、モスクワから悲惨な退却をした。1813年の8月までには、新たな軍と共にサクソニーを後にした。ドレスデンで連合軍を破り、北西に進軍し、ライプチヒでサクソニー王の同盟軍と市外で野営した。10月18日にナポレオンはカール・シュワルゼンバーグ皇太子の率いる連合軍と激しい戦いをした。翌日、ナポレオンのサクソン軍が反撃したが、破れてドイツ退却を余儀なくされ、二度と戻ることはなかった。

ライプチヒはフランス軍への勝利を祝ったが、街には負傷者があふれていた。ハーネマンは負傷者と市内に広がる伝染病患者の治療にあっていた。チフスがライプチヒを襲った時、ハーネマンは180人

を治療し、亡くなったのは2人だけだった(1%以下)。アロパシーによる死亡率は30%以上であった。注目すべきは、現代においてもこの病気の抗生物質による早期治療で下がる死亡率はおよそ1%までである。治療をしなかった場合、腸チフスは3週間から1ヵ月続き、10%から30%の確率で死亡する。

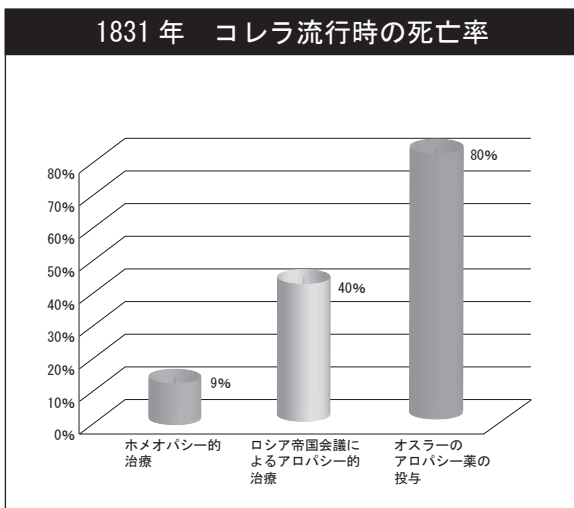


## 1831年のコレラの流行

コレラがついにヨーロッパに上陸したのは1831年で、当時の従来の薬品（アロパシー）で治療した時の死亡率は40%（ロシア帝国議会）から80%（オスラーの薬の投与）である。コレラに感染した5人のうち、2人から4人がアロパシーの治療で亡くなっている。

以下は、今日の評判のいい医者記録である。

- 優秀な医師であるロンドンのクイン医師は、1831～32年の英国のホメオパシー病院での死亡率は9%であると報告している。
- バーバリア王の主治医であるロス医師は、ホメオパシー治療による死亡率は7%であると報告している。
- ロシア帝国議会のモルドイノウ司令官によると、ホメオパシーでの死亡率は10%である。
- ダブリン・クォーターリー・ジャーナルのアロパシー派の編集者であるワイルド博士によると、オーストラリアでの記録ではアロパシーの死亡率が66%であるのに対し、ホメオパシーでの死亡率は33%であり、「このような並外れた結果では、オーストラリアでホメオパシーの診察を禁止する法律は無効になるだろう」



## ジョセフ・プルト氏と1849年シンシナシティでのコレラの流行

ホメオパシーの歴史家ジュリアン・ウィンストンは、彼のウェブサイトでこの逸話を書き直した。ホメオパシーを最初は疑っていた人々さえ、最後には認めてしまうという話である。これはシンシナシティで最初のホメオパシー医師であるジョセフ・プルトの物語である。

彼がホメオパシーの診察を始めた時、町にホメオパスがいることに多くの人々が怒り、彼の家に卵を投げつけた。彼は失望し、立ち去ろうとしたが、妻が「あなた、ホメオパシーの真実を信じていらっしやらないの？」と問いかけた。彼は肯定的に答えた。「それでは私たちはここに残しましょう」と妻は言った。

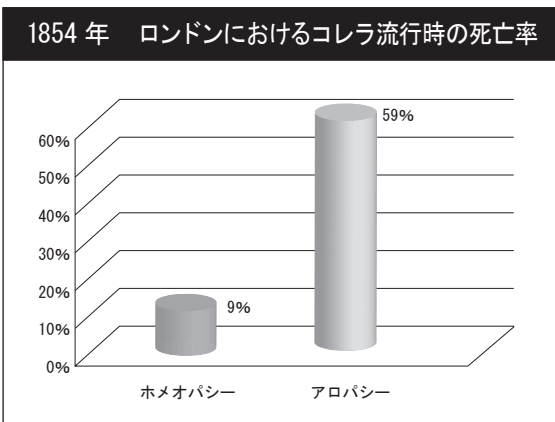
しばらくして、コレラが蔓延した時、彼は患者を一人も死なせなかったため、人々に受け入れら

れた。1849年の流行では待合室が満席になり、人々は彼の家のドアに群がり道に行列を作った。

### 1854年のコレラの流行

1854年、ロンドンでコレラが流行した時、ホメオパシーは引き続き有効な治療法であった。この病気が流行している間、医学的に飛躍的な進歩が起こった。医療団体（正確に言えばジョン・スノウ医師）が病気の源にたどり着くことに成功した。この場合は給水ポンプだった。ポンプを閉めると、病気の流行がおさまったのである。最終的に死者は10,738人だった。

下院は疫病に関するさまざまな治療法を要求した。提出された報告書にはホメオパシーの統計はなかった。上院は説明を求め、もしホメオパシーの統計が報告書に含まれているなら「事実を歪曲している」とし、発表しなかったことを認めた。説明によると、埋もれた報告では、アロパシーの治療のもとでの死亡率は59.2%だったが、ホメオパシーの治療ではわずか9%だったことが明らかになった。



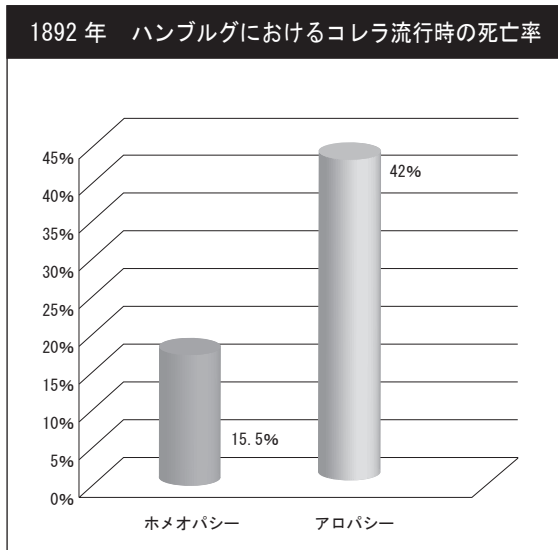
### 1855年 リオデジャネイロ

ホメオパシーで治療を受けた388のコレラの症例では、死亡率は2%であったが、アロパシーの診療所では40~60%であった。1878年、サタニーノ・デ・メイレルらはかつてのブラジル・ホメオパシー協会を再建し、現在まで続くブラジル・ハーネマン協会に変更した。ホメオパシーはブラジルでも盛況であり、国の健康促進のために重要な役割を占めている。

### 1892年 ハンブルグ

ハンブルグでは1892年にコレラが流行し、アロパシーの死亡率は42%であったが、ホメオパシーでは15.5%だった。合計で約8,600人が死亡した。市の政府は、ジョン・スノウ博士がコレラの蔓延は公共の水道供給と関連性があると発見したことを知っていたが、政策を変えなかったために死亡をくい止められなかった。政府はこの悲劇に大きな責任を感じ、ついに疫病に対する政策を変えた。これがヨーロッパで最後のコレラの大流行となった。

コレラはいまだに健康に対する現実的な脅威であり、最も早く死に至る病として知られるようになった。健康な人でも症状の発生から1時間以内に低血圧になり、特に突発的であり、感染した患者は治療されない限り3時間以内に死亡する。通常、病気は下痢便から始まり、4時間から12時間でショック症状を起こし、水分補給の治療を受けないと18時間から数日以内に死亡する(興味深いことに、0型が最も感染しやすく、AB型が最も感染しにくい)。



### 米国南部の黄熱病

黄熱病は1850年代に米国の南部で発生した。この病気は蚊を媒介にして発生するということが最終的に判明した。黄熱病に対し、当時の通常の薬の治療を受けていた人々の死亡率は、場所にもよるが15~85%だった。ミシシッピ州ナチュスのホメオパシー医師ホルカムとデイビスの死亡率はそれぞれ6.4%と5.7%だった。

1878年、ニューオリンズではアロパシーの治療では死亡率が50%だったのに対し、ホメオパシーでは5.6%だった。感染データは1,945件であり、サンプルとして適切な数といえる。

黄熱病に対するホメオパシーのもうひとつの成功例は、「プレジデント・アドレス」に書かれたケンタッキー州ルイスビルのA.L. モンロー博士の1886年12月10日金曜日、午前8時、南部ホメオパシー医学協会の第3回年次大会にある。

黄熱病の統計は、1878年の米国南部での黄熱病の平均的な死亡率を示している。これらの統計は、黄熱病が広がった直後の現地を訪ねた黄熱病の専門委員会によって計算された。

アロパシーが15.5%、ホメオパシーが6%である。ここには注意深く、良心的な作業員によって集められた大量の統計があり、500,000人の患者に与えられた、少なくとも1,000,000件の処方箋の総計である。この作業は各流派からそれぞれ少なくとも1,000人の医師が何年にもわたって取り組んだ。

## 天然痘

1886年12月10日の同大会（南部ホメオパシー医学協会の第3回年次大会）で、モンロー博士は述べている。

最初にみなさんにお伝えしたいお知らせは、1874年に信頼のおける生命保険会社が実施した1870年から72年までのボストンでの死亡記録だ。フィラデルフィアでは1872年、ニューアークでは72年と73年に天然痘が猛威をふるった。この表は、2つの大きな医学流派の代表者たちによる、当時に治療を受けていた患者の死亡者数の平均である。モンロー博士の言う「2つの医学の流派」とはホメオパシーとアロパシーを指している。

天然痘の統計	アロパシーの 平均的死亡数	ホメオパシーの 平均的死亡数
ボストン (1870年,1871年,1872年)	1735	885
ニューヨーク (1870年,1871年)	1576	848
フィラデルフィア (1872年)	1903	1287
ニューアーク (1872年,1873年)	2046	1124
ブルックリン (1872年,1873年)	2280	1028
総平均	1908	1034

## ジフテリア

多くの人々が恐れているもう一つの伝染病、ジフテリアも、ホメオパシーで成果を上げている。予防接種が広まったおかげで、現代ではそれほどみられなくなっている。

ジフテリアは周期的に現れるが、同じ症状が現れないので、治療が難しい病気である。つまり個々の施術者が、患者の症状に正確に合うホメオパシー的処方を個別化しなければならない。ある年に効いたレメディーが次の年に効くとは限らない。

ニューヨーク州ブルーム郡での1862~64年の3年間のジフテリアの記録によると、アロパシー医師では死亡率が83.6%、ホメオパシーでは16.4%である。（ブラッドフォード）

管理された研究室での実験では、ジフテリアに対しノゾースを予防的に使用方法をサポートする証拠が集まった。1932年、シェバロンはジフテリアで治療した45人の子どもがシックス試験で陽性から陰性（ジフテリアの抗体があることを示している）になった事実を発表した。パターンソンとボイドが1941年にこのテストを再び行い、33人中20人の子どもがシックス試験で陰性になった。ルーも1946年にテストをしたが、同様の結果になった。

## 1918年 スペイン風邪についての概要

1918年のスペイン風邪は世界的に壊滅的で、全世界に影響を与えた。第一次世界大戦が勃発し、世界の大半で報道が規制された。敵に自分の軍隊が風邪で打撃を受けたことを知らせないことは

必須である。「スペイン風邪」と名づけられたのは、スペインからしか情報が得られなかったからである。

スペイン風邪は鳥の風邪の一種で、主に極東で見られるものと似ている。面白いことに、最近メディアでは鳥インフルエンザについてあまり聞かない。しかしウイルスはいまだに人々を殺し、WHOでは人類の大きな脅威と考えている。さらに感染力は強くなり、現在このウイルスにかかった人の死亡率は80%と言われている。

### 1918年 ホメオパシーと鳥インフルエンザ

スペイン風邪に対するホメオパシーの効力を証明する最も説得力のある歴史的なレポートは、1921年「米国ホメオパシー協会ジャーナル(The Journal of the American Institute for Homoeopathy)」に掲載された。この長いレポートは、多くの信頼できる情報源と当時の優れた医師達の貢献によって証明されている。その中の一人、オハイオ州デイトンのT.A.マッカーンによると、24,000件の風邪の症例において、アロパシーでの死亡率が28.2%だったのに対し、ホメオパシーの26,000人のグループはわずかに1.1%だった。

1920年、W.A.デュウエイ医師は「米国ホメオパシー協会ジャーナル」に「インフルエンザにおけるホメオパシー50の調和的合唱」という題で、1918年のスペイン風邪でホメオパシーが成功を収めたことを記した。

デュウエイは米国各地のホメオパシー医師らに手紙を書き、次のような返答を受け取った。フィラデルフィアのW.A.ピアソン博士は26,795件の、ホメオパシーで治療を受けたインフルエンザの症例を集めたところ、死亡率は1.1%だった。これに対し、平均的な通常の医学での死亡率は30%であった。コネチカット州の30名の医師らも私のデータ収集に協力してくれた。6,602件のうち、55人が死亡し、1%以下の割合だった。

H.A.ロバーツは当時軍隊輸送船の医師だった。彼は2つの事実をデュウエイに送った。輸送中に81件をみたが、全員が回復し、上陸できた。全ての患者がホメオパシー治療を受けた。他の船では31人が亡くなった。

ロバーツ氏のもう1つの報告書より：

他の船は、私の乗っていた船にぴったり横付けしてきた。それは予備の棺を手に入れるためである。他の船の死亡率はとても高かった。ロバーツ氏が港に戻ってきた時、司令官がロバーツに尋ねた。「棺を全部使ったのか？」。船員をホメオパシーで治療していたロバーツ氏は答えた。「はい、全部使いました。死者は一人も出ませんでした。」

その他の報告：

8,000人の労働者がいる工場で死亡者は1人だけであった。患者達は薬で死に至ることはなかった。Gels.しか使わず、アスピリンやワクチンは使わなかった。(フランクリン・ウィーランド、医学博士、シカゴ)

私はインフルエンザの患者を一人も死なせなかった。肺炎による死亡率は2.1%だった。アスピリンとキニーネを含むサリチル酸は旧医学(従来の薬)の唯一の御用達だが、聞くところによると肺炎の60%が亡くなるということだ(ダドレイ・A・ウィリアムズ、医学博士、ロードアイランド州プロビデンス)。

ワシントンDCホメオパシー医学協会によると、1500件のうち15人の死亡が報告された。国立ホメオパシー病院での回復率は100%である。(E.F.サップントン、医学博士、フィラデルフィア)

私は1000件のインフルエンザの症例を扱った。私は記録をとってあり、一人も死なせていない。ホメオパシーに全幅の信頼を捧げてください。スコットランドやアイルランドからの移民アメリカ人にはなくて。(T.A.マッカーン、医学博士、オハイオ州デイトン)

多くの患者を亡くしたピッツバーグの病院の医者が、看護師に自分よりもっとよい方法を知っているかと尋ねた。「ええ、先生。アスピリンをやめてホメオパシー薬局へ行ってレメディーを買ってくることです。」「しかし、あれは、ホメオパシーではないか?」「そうです。でも私が看護したホメオパシーの先生は一人も死なせませんでしたよ。」

(W.F.エドモンドソン、医学博士、ピッツバーグ)

インフルエンザ自体より、直接的または間接的に死亡の原因になった薬がある。よく知られた薬だ。サリチル酸にはアスピリンの歴史が刻まれている。今日、サリチル酸の鎮静作用については知られていない。有害な点は2つある。間接的な作用としては、アスピリンは衰弱を促し、肺炎を引き起こす。(フランク・L・ニュートン、医学博士、マサチューセッツ州サマーヴィル)

アスピリンとその他のコールドタール製品は、不要な死の原因として追及されるべきである。どこにでもあるアスピリンは最も有害なドラッグである。痛みを素早く抑えることで欺いているまやかしである。いくつかの症例において、アロパシーが心臓を弱め、バイタルフォースを押さえつけ、軽い症例でも死亡率を上げ、回復を遅らせる。全ての症例で症状を隠し、治療可能なレメディーの選択を困難にした。おそらくアスピリンは、どの病気にも関係のない治療薬であり、禁止するべきである。(ガイ・ベックリー・スターンズ、医学博士、ニューヨーク)

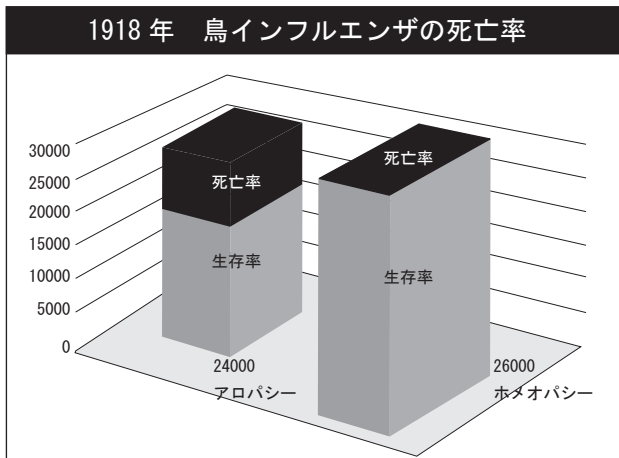
350件中、1人が死亡したが、それは私のところに来る前の24時間に100粒もアスピリンをとった女性だった。(コーラ・スミス・キング、医学博士、ワシントンDC)

私は1000錠のアスピリンの箱をもらったが994個は不要だった。6個ぐらい与えたと思う。他に代わりがなく、レメディーも少ししか残っていなかった。私はいつもGels.とBry.を与えた。

これらを最初に与えれば、治らないことはほとんどなかった。例外は、患者が薬局にアスピリンを買いに行かされた場合で、こうなると患者は肺炎に近づいていった。

(J.P. ハフ、医学博士、ケンタッキー州)

最後のグラフは、ホメオパシーとアロパシーの治療を受けた人々の膨大なサンプルを明確に表している。右の棒グラフの一番上にある、黒色の部分がホメオパシーで治療を受けた人々の死亡率である。



### 終わりに

私は常に、ホメオパシーはデータの裏付けに欠けると批判されてきたことに関心を寄せていた。データがあれば「症例数が少なすぎて正確でない」と言われる。この歴史的に際立ったホメオパシーの功績を見てほしい。我われの持つデータは信頼できる情報源からであり、非常に膨大な症例数がある。私はこの情報を知らしめる時が来たと思い、一般の科学者たちに「何かが起きている」、そのような現象があることを認めてもらいたい。言い換えれば、ホメオパシーを利用している人は明らかによくなっているのである。その作用のメカニズムを解明することがまだ難しいとしても、これは注目する価値がある。

もちろん科学は進歩し続けるだろうし、あと数十年もしてから、昔を振り返ると、ホメオパシーが馬鹿にされていて、人々の目を丸くさせていたという現在の状況を見ることになるだろう。今から100年も昔ではない時代に、伝統的な科学者の中でも最も影響力の強い者が原子の存在を認めていなかったということが、現代ではよく知られているように。

英国認定ホメオパス連合(A R H)学術誌"Homeopathy in practice spring 2009"より和訳